

科目名	社会・集団・家族心理学1			ナンバリング	PSY522	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期集中	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	佐藤拓	担当教員					

授業の概要	社会の様々な場面で生じる人間関係、および人間と社会の関わりを科学的な視点から学ぶことを目的としている。社会心理学の古典的知見について学ぶとともに、学校、家庭、会社などの日常生活場面で直面する人間関係の問題についても学習する。また、偏見・差別、風評被害、詐欺・悪徳商法などニュース等で報道される様々な社会的な事象についても、社会心理学の観点から学んでいく。						
到達目標	1. 社会心理学の基本的な用語を説明することができる。 2. 授業で説明した現象を、自身の日常生活やニュース等で報道される事件と関連づけることができる。 3. 授業内で実施される実験や調査に積極的に参加し、その結果について考察し、他者とそれを共有できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	1. 「心理学概論」を履修していると、授業内容がより理解しやすくなる。 2. 講義内容を自分自身の日常生活と結びつけ、自分の言葉で各用語を説明できるようにする。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①社会心理学に関する基本的な用語を理解できる。 ②授業で説明された実験・調査の手続き、および得られた知見を理解できる。 ③授業で実施される実験・調査に参加し、その内容を心理学の観点から議論できる。	①社会心理学に関する基本的な用語を説明できる。 ②授業で説明された実験・調査の手続き、および得られた知見を説明できる。 ③授業で学んだ内容と自身の日常生活やニュース等で報道される事件と関連づけることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							0%
小テスト・授業内レポート	○	○					50%
宿題・授業外レポート	○	○					40%
授業態度・授業への参加			○	○			10%

課題、評価のフィードバック	1. 授業内で行った課題について授業内、およびmanab@IMUでフィードバックを行う 2. 毎回の質問に対しては、次回の授業の冒頭で説明を行う
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	講義全体の流れ、グループワークの方法、毎回の課題提出の方法について説明する。	
	第2回	自己(1): 自己と他者	自己、自己概念の特徴、および文化の影響について説明する。	
	第3回	自己(2): 自己開示	自己開示の特徴・機能について説明する。	
	第4回	自己(3): 自己呈示	自己呈示の特徴・機能について説明する。	
	第5回	印象形成	印象形成に関する実験、およびそこから得られた知見について説明する。	
	第6回	社会的推論(1)	帰属に関する理論・モデルについて説明する。	
	第7回	社会的推論(2)	推論のエラーとバイアスについて説明する。	
	第8回	ステレオタイプと偏見	血液型とパーソナリティを例に、ステレオタイプと偏見について説明する。	
	第9回	態度と説得	態度に関する理論と説得的コミュニケーションについて説明する。	
	第10回	嘘とだまし(1): 欺瞞の認知	人の欺瞞認知の特徴について説明する。	
	第11回	嘘とだまし(2): 詐欺・悪徳商法	詐欺・悪徳商法の特徴について説明する。	
	第12回	人間関係	人間関係の形成、維持、崩壊について説明する。	
	第13回	集団と個人	他者の存在や集団の特徴が、個人の行動にどのような影響を及ぼすかを説明する。	
	第14回	うわさと風評被害	うわさと風評被害のメカニズムについて説明する。	
	第15回	まとめ	第1回から第14 回までの授業の要点、および関連を整理する。	
	試験	期末試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とするが、実験・調査、ペア/グループ・ワーク等も行う。		
授業外学習の指示		各回のキーワードを参考に事前に内容を予習し、授業後は配付資料を中心に講義の内容を復習する。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)		

教科書	指定しない。講義内で配付する資料を参考にすること。
参考書	池上知子・遠藤由美, 『グラフィック社会心理学 第2版』, サイエンス社, 2008年(定価:2600円+税), ISBN 4781911919
参考URLなど	
その他	manab@IMUを用いて課題・リフレクションシートの提出が求められるので、その操作に慣れておくこと。